

## 1. 調査報告概要表

作成日 平成21年4月27日

## 【認知症対応型共同生活介護用】

## 【評価実施概要】

事業所番号	2770300867
法人名	フラッシュ日乃出産業 株式会社
事業所名	グループホーム日乃出
所在地	寝屋川市宇谷町10番1号 (電話) 072-825-8735

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 21年 4月 6日

## 【情報提供票より】(平成 21年 2月 28日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 6月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	14人	常勤	14人, 非常勤 0人, 常勤換算 14人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	5階建ての	2階 ~	3階部分

## (3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000円	その他の経費(月額)	約26,400円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	360円	昼食 630円
	夕食	630円	おやつ 120円
	または1日当たり 1,740円		

## (4) 利用者の概要 (平成 21年 2月 28日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	8名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	66歳	最高	94歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	上山病院、小松病院、寝屋川サナトリウム、横山診療所、安部歯科、西本眼科
---------	-------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

保養所を改装して8年前に寝屋川市で最初に開設された民間企業のホームで、幹線道路からは少し離れた静かな所にあり、ホームの日本庭園には梅や桜が咲き、栗や柿の実が成ります。金魚が泳ぐ池や大きな櫓があり、季節折々の自然が楽しめます。職員は『笑顔とふれあいの家』の理念を共有しており、「笑顔で明るく、大きな声で、腰を低くして(目線を合わせる)」を目標にし、常に『利用者本位』で自分の親と接する気持ちで声かけをして、利用者の笑顔に多く出会えることが皆の喜びです。また、利用者には自分の家に居るような安心して普通の生活をしていただける事を大切に支援されています。利用者は穏やかで明るい表情で過ごされています。職員も利用者から元気をもらっています。ホームには常勤の看護師が開設時からケアに関わっており、介護職員と良いチームプレイが伺えます。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4)
	前回は受けた外部評価結果はフロア会議・主任会議の課題として取り上げ改善に取り組んでいます。運営推進会議の開催、職員研修の取り組みを実施しました。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価はフロア会議で検討し、記載後に回覧し職員全員が周知しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議の規定を定め2ヶ月に1回、会議を開催しています。市の担当者、地域包括支援センター職員に加え、近くの特別養護老人ホームからも出席していただき介護に関わる意見や入所者の待機状況などの情報を得ています。利用者家族の参加も得ています。行事報告・ホームの介護状況・ヒヤリハット状況の対策等について報告し、意見・要望を得ています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	職員は家族より何かあればすぐに連絡を受けられる体制を取っています。家族の訪問時には近況を報告しています。訪問時にいただいた家族からの情報や意見・要望については面会用紙に記してもらい、利用者毎の申し送り表に転記しています。心身の状況の特別な変化等については電話連絡を行っています。運営推進会議に出席してもらい、意見・要望を出していただく機会を設けています。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の特別養護老人ホームとは協力関係を持っています。ホームの眼下に見える小学校からは「敬老の日」に四年生が運動会への招待状を持って訪れます。「運動会」当日は応援パネルを作って出かけ、交流が生まれます。『こども110番』事業にも協力しています。こどもを通して周辺地域に理解と協力の輪を拡げています。隣地マンション隣の公園へ散歩に行くことで、マンション住民の方とも顔馴染みになり、一人で出かけている利用者を見かけると、ホームに知らせていただくこともあります。歌体操や三味線等のボランティアの訪問もあります。

## 2. 調 査 報 告 書

(        部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○ <b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『笑顔とふれあいの家』を理念に明文化してパンフレットなどに標榜し、利用者と職員が微笑みを絶やさない関係のなかで支援を目指しています。また、法人の理念として、「地域住民として交流していく施設を目指す。」「既存の高齢者施設と連携しながら地域に開かれたホームを目指す」など地域密着型の役割にも取り組む姿勢があります。『笑顔で、明るく、大きな声で、腰を低く（目線を合わせる）』を目標にし、「利用者が普通に生活できる」ことを支援しています。		
2	2	○ <b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念を共有し、利用者の笑顔をみるのが何よりの喜びであり笑顔を大切にしながら『自立支援』に努めています。日々の申し送りやフロア会議時に理念を唱和しています。更に利用者家族にも理念が浸透することを期待して、面会簿にも理念を添付する予定です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	眼下に見える小学校から四年生が運動会の招待状持って訪れます。運動会当日は応援パネルを作って出かけます。秋には庭で収穫した栗をイガのまま小学校に届け、児童に喜ばれる等の交流が生まれます。『子ども110番』事業にも協力しています。ホームには歌体操や三味線などのボランティアの方が来られ、利用者の楽しみになっています。隣地マンション隣の公園へ散歩に行くことで、マンション住民の方とも顔馴染みになり、一人で出かけている利用者を見かけるとホームに知らせていただくこともあります。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はフロア会議で検討し、記載後に閲覧し職員全員が周知しています。前回に受けた外部評価結果は会議の課題として取り上げ改善に取り組んでいます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の規定を定め、2ヶ月に1回、会議を開催しています。市の担当者、地域包括支援センター職員、近くの特別養護老人ホームからも出席していただき介護に関わる意見や入所希望者の待機状況などの情報を得ています。利用者家族の参加も得ています。行事報告、ホームの介護状況、ヒヤリハット状況の対策等について報告し、意見・要望を得ています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者へ外部評価の評価結果を提出しています。月に1回はホーム便り「けやき」を市に持参し、担当者と情報交換やコミュニケーションを図っています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には近況を報告しています。心身の状況の特別な変化等については電話連絡を行っています。2ヶ月に1回ユニットごとのホームだよりを送付しています。便りには利用者毎に様子の分かる写真を添えたお知らせを家族に送付しています。新任職員はホームだよりで紹介をして、家族の訪問時にも紹介しています。金銭の預かり金はありません。外部評価結果は家族にも送付し、ホーム内でも家族が見やすいように面会簿と一緒に置いています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族より何かあればすぐに連絡を受けられる体制を取っています。訪問時に家族からの情報や意見・要望については面会用紙に記してもらい、家族からの意見は利用者毎の申し送り表に転記しています。運営推進会議に出席してもらい、意見をいただいています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者や家族に対して職員の異動による不安を和らげる配慮をしています。離職に対してはスムーズな引継ぎをするよう留意しています。アセスメント表・ニーズ表・カンファレンスシート・個別申し送りノートなどが充実しており新任職員は個々の利用者の状況把握がスムーズにできます。新しい職員はホームだよりに顔写真を掲載し、訪問回数の少ない家族にも周知しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者をはじめ職員も研修には意欲的で、必要に応じて外部研修を年2回以上受講しており、フロア会議時には伝達研修を行っています。内部研修を含め『緊急時対応』『認知症』『感染症』の研修は実施しています。また職員の資格取得奨励のため、資格試験等の受験料の半額を事業所が負担しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪認知症高齢者グループホーム協議会に参加しています。地域包括支援センターの主催で、グループホームの情報交換の集まりに参加しています。市内の他のホームを見学訪問し、情報交換等、交流を深めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p><b>○馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>自宅や短期入所施設を訪問し、入居希望者とは事前に面談を行っています。入居を定める場合には、ホームの施設状態を確認していただいています。入居についての理由等を家族と事前に詳しく相談し、職員が事情等を周知する事を徹底しています。入居後、利用者がホームに慣れるまで、初日には必ず様子を伝え、その後も2～3日毎に電話で様子を家族に伝え安心していただいています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p><b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>在宅での生活を継続するために家族から情報を得て、好きな家事などをしてもらい、職員は教えてもらう立場になって一緒に作業します。以前は各ユニットで食事の献立を立て利用者と共働して調理をしていましたが、高齢化・重度化に伴い最近は職員が調理することが主となったため、ユニット共通の献立にし、昼食・夕食を交互に調理することにし、手の空いた職員は利用者一人ひとりに寄り添い共に過ごす時間を大切にしています。利用者からは言葉遣いや礼儀作法を学びます。入浴時にはゆっくりと話を込み、共鳴・共感することがよくあります。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人や家族の希望を聞き記録しています。3ヶ月に1回、アセスメント表にも記入しており、日々の生活に反映させています。起床がゆっくりの方は朝食も遅く取っていただいています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1回ケアカンファレンスを行っており、ニーズに則したケアの実践ができているか検討し、介護計画に取り入れています。作成した介護計画は必ず家族と面談の上、計画を読みあげて説明し同意のサインを得ています。作成された介護計画は職員にも計画作成担当者が説明する時間を設けており、全職員が目を通し確認印を押しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	カンファレンスシート・アセスメント表・ニーズ表・身体記録・個別申し送りノートなど介護に必要な記録は揃っていました。月に1回フロア会議・カンファレンス会議を開催し利用者の生活の変化に対応しています。入院の方が退院した時にも見直しをしています。基本的には3ヶ月ごとに利用者一人ひとりに何が必要かの一覧表をチェックして、丁寧に介護計画を評価するシステムもできていました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	通院・受診は送迎を行っています。入居前からのかかりつけ医への受診は、家族や看護師が必要に応じて付き添っています。緊急時対応の受診も行って		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかかり つけ医と事業所の関係を築き ながら、適切な医療を受けら れるように支援している	入居時に利用者本人や家族とホームの提携医に受診するか、今までのかかりつけ医に受診するかを話し合い、希望する医療機関を把握しています。月2回内科医の往診を受けています。また、内科以外の他のかかりつけ医にも月1回の定期受診を支援しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針を定めており、職員間で共有しています。入居契約時に本人・家族に指針を配布し、指針の内容やホームが対応し得る支援方法（基本的には医療行為が常に必要なとなった場合は、ホームでの生活は対応できないことを含めて）について家族にも説明しています。利用者が入院された場合、退院時にホームでの受け入れが可能な状態かどうかについては、その都度家族・看護師・職員で話し合っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護に関する規定が定められ、職員は周知しています。ミーティング等で利用者の人格を尊重し、プライバシーを損なわない対応の徹底が図られています。入職時には守秘義務に関する誓約書を提出しています。職員は利用者一人ひとりの人格を尊重した、言葉かけや対応を行っています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての1日のスケジュールは立てていますが、利用者一人ひとりの生活歴などの情報を得てそれぞれに合わせた生活を尊重し、急がせることなく支援しています。朝食の時間は目覚めの遅い方はゆっくり食卓に付きます。食事の摂取時間が長くかかる方は、少し早めに配膳して自分のペースでゆっくりと時間をかけて食べていただいています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の調理は利用者の高齢化・重度化に伴い職員が行っていますが、キッチンの周辺で調理の様子を見守っていただき、料理についての話題と共に、雰囲気味わってもらっています。下膳・食器拭きは一緒に行います。職員は利用者と同じテーブルで食事を摂りながらさり気なくサポートしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回できるようにしています。入浴時は一人ずつゆっくり入る配慮をしています。希望すれば決まった回数以外にも入浴できます。入浴を好まない利用者には、まず足浴を勧め、浴室に馴染んでから入浴できるよう工夫しています。入浴介助時は1対1の会話を楽しみ、戦争体験などの話を伺うこともあります。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	在宅の頃から馴染んだ家事、洗濯物干しやたたみ、フロアの掃除、居室の拭き掃除・下膳や食器拭き等日常生活の中で、できる家事は自分で行っていただくことが、日々の暮らしの張り合いに繋がっています。またこれまでの生活歴や得意なことについての情報を得て、花の世話の好きな方・習字をたしなむ方・裁縫や編み物をされていた方・ボランティアの受け入れにより歌を楽しんでいただく方等、それぞれの生活を支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出可能な方で季節の良い時は、隣地マンション傍の公園への散歩をしています。マンションの住民とも顔馴染みになってきました。体力的に外出・散歩の機会が少ない利用者は、ホーム内の広い庭園で外気に触れる機会があります。池に金魚が泳ぎ、梅や桜が咲き、栗や柿が実る広い日本庭園は入居時に魅力的な選択条件になっています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は利用者一人ひとりの行動パターンや希望を察知できるよう努めています。利用者が落ち着かず安全面の配慮がいつも以上に求められる時には施錠する場合がありますが、基本的に、日中は玄関の鍵を開錠しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常時には3階はベランダから、2階は直接庭に出ることができ、避難しやすい立地条件です。消防署の協力を得て対策に取り組んでいます。急変や事故発生等のマニュアル・災害発生時のマニュアルを作成し、職員は避難訓練をしています。缶詰・レトルトの冷凍食品や米・飲料水など、非常時用の食品を備蓄しています。加熱用の炭やコンロ・携帯カセットボンベを備えています。年1回点検するシステム作りを予定しています。今後は、利用者と職員合同の避難訓練を月に1回程度行うことを目標に取り組まれてはいかがでしょうか。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている	食事摂取量は毎食記録に残しています。水分 摂取量は概ね把握しています。特に体調不良 (発熱・下痢等)が出現した場合はスポーツ 飲料等を補給し脱水症状が起こらないよう留 意しています。食事のメニューは利用者の好 みを伺いながら立て、以前勤務していた栄養 士がチェックした献立表等を参考にして栄養 バランスに配慮しています。機会を見て再度 栄養士にもチェックを依頼する予定です。看 護師は毎月の体重測定や年に2回の血液検査 で利用者毎の摂取栄養状況をチェックし、把 握しています。		
1. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、 食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にと って不快な音や光がないように配慮し、 生活感や季節感を採り入れて、居 心地よく過ごせるような工夫をしてい る	2階・3階とも食堂のテーブルを中心に利用 者が過ごしやすいように配慮されていまし た。ソファを置き利用者が団欒できるよ うにしています。庭先にもテーブル・椅子があり 気候が良くなると戸外でもくつろげます。季 節感あふれる広い日本風庭園は居室や廊下か らも見渡せ利用者の心をなごませています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	<p><b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>裁縫や編み物の道具など色々な思い出のある品は利用者本人にとっての宝物だと捉えており、居室へ持ち込む家具等の選択は利用者本人や家族に任せています。部屋に物を置くことを好まない利用者もいますが、孫の結婚式に出席した記念写真や家族の写真、自分の作品を飾る方、蒸気機関車が大好きな利用者の部屋には大きな機関車の写真が貼ってあるなど、それぞれ個性のある居室になっています。</p>		